

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	ぱぷりかキャンパス(児童発達支援)		
○保護者評価実施期間	2025年3月9日		2025年3月16日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	9	(回答者数) 9
○従業者評価実施期間	2025年3月9日		2025年3月16日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8	(回答者数) 8
○事業者向け自己評価表作成日	2026年5月1日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	音楽療育を基盤とした支援プログラムを設定している点	音楽は、言葉だけよりも受け入れやすく、理解しやすい。又、脳の広い領域を同時に活性化させる事が出来る。具体的には、リトミック、ことば音楽療法、楽器演奏を用いて協調運動やタイミング感覚、コミュニケーション力、表現力を高めている。	音楽には、感情を調整する働きがある為、落ち着いて取り組む時間が増える事から、学習や対人関係の土台作りを行い、将来の自立や就労に繋げていきたい。
2	職員の質	保育士、児童指導員の他に、キャンプインストラクター、ピアノ講師、リトミック講師、音楽教諭免許、クラリネット奏者、プログラミング講師、鍼灸マッサージ師の専門的な知識を持つ職員が在籍している。 又、職員のスキルアップの為、専門的知識を共有し職員全体のスキルアップを目指している。	子供達にとって居場所以上に学び、自己肯定感を高める場所である事を伝える為に日々職員が学び、挑戦し続ける姿を見せていく。
3	就労を目的とした本人支援、家族支援に力を入れている	月1回の保護者勉強会(保護者スキルアップ講座)を開催している。日々の保護者との交わりを大切に、送迎から療育がスタートしている意識づけを行い、家庭とぱぷりかキャンパスの両輪で子供の成長を促している。 又、個別支援にも柔軟に対応し、家庭状況に応じた支援も行っている。	保護者の方が「楽しい」「来てよかった」と感じてもらい、輝く母親の背中を見せてあげられる環境を職員が全力でサポートしていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	基本的に送迎を行わない	日々、保護者とのコミュニケーションを取る事が重要であると考えている。しかし、保護者の送迎困難でやむを得ず欠席となる場合があった。どんな状況でも可能な限り対応できるように対応力が求められる。	送迎をしない理由を保護者に伝えながらも保護者の方に送迎して頂けるおかげで活動の質が上がる事に感謝の気持ちを忘れないよう心掛ける。
2	保護者に対して「出口が就労」の具体性の浸透が弱い	小学低学年の保護者が多く、18歳以降のイメージが湧きにくいと考える。しかし、18歳の壁と呼ばれるように、社会に出るタイミングで子供達が困る事がないよう、もっと伝えていく必要がある。	月1回の保護者勉強会の内容を深め、我が子の将来に向けて考えて実行に移す機会を設けていく。
3	さらなる柔軟な対応	インクルーシブ教育の観点から、更に受け入れ態勢の柔軟さが求められると考えている。身体に不自由さを持つ児童への対応は、環境面、職員の専門性においてスキルアップが求められていると感じる。	「子供の成長になるのか」の視点を大切にし、音楽療法を基盤として療育・教育活動を子供達にとってどのように支援していくかを常に検討していく。

公表 保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名 ばぶりかキャンパス(児童発達支援)

公表日 2026年5月25日

利用児童数 9

回収数 9

		チェック項目	はい	どちらか	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・体制整備	1	こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	9					・広さを有効に活用し、さらに活動の幅を広げていけるようにさらに検討していく。
	2	職員の配置数は適切であると思いますか。	8			1	・不足しているとは思わないが、玄関先でのやり取りなので実際の人数は把握できない。	・職員配置は基準以上配置して対応しているが、さらに一人ひとりに応じたきめ細かな対応を検討していく。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	8			1	・活動場所での様子を見る機会が少く分かりかねる。	・必要に応じて、事業所前の駐車場を案内する。 ・子供の成長に合わせて、机や椅子の高さの調整をしていく。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間になっていると思いますか。	9				・イベント等で利用した限りでは過ごしやすい環境であると感じた。	・清掃は指導者だけが行う事ではなく、「場を清めると心も清められる」という考え方を大切にして子供達と一緒に清掃や整理整頓の機会を日常的に設けていく。
適切な支援の提供	5	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	9					・「プロ中のプロ」を目指し、他事業所の手本となるよう「教育・療育・対応力」のスキルアップを日々目指している。
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	9					・支援プログラムを基本としながら、その日の子供の気持ちや様子を大切に、柔軟に対応できるようにしている。
	7	こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	9					・アセスメントの時間を対面で設けている。事前に記入してもらったライフサポートブックを元に出生時から現在までのお子様の状況、家庭環境を聞き取りし計画作成に生かしている。
	8	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	9					・「本人支援」全ては子供の成長に繋がるかが判断基準で立案している。 ・「家族支援」保護者スキルアップ講座を設け、家庭教育の大切さを伝え実行している。 ・「18歳の壁」を意識し、切れ目のない支援に繋
	9	児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	9					・個別ファイルに個別支援計画を保管し、日常的に閲覧できるようになっている。 ・支援内容に対して疑問点があった場合は、その都度検討して改善に努めている。
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	9					・毎月、職員間で話し合いプログラムを決定している。その際に、音楽療法を基盤しながら、季節感や体験を重視している。 ・日々進化する音楽療法に対応できるよう、職員のスキルアップを目指す。
11	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のこどもと活動する機会がありますか。	4		2	3	・交流はないですが、イベントが充実しているので満足です。	・頻度としては多くないので、体験活動の観点から回数を増やしていきたい。 ・「ばぶりか音楽感謝祭」を開催予定である。	
12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	9					・契約時、モニタリング時に説明するよう心掛けている。その都度、疑問点があれば伺い対応している。 ・自費徴収がある場合は、前の月にお知らせしている。	
13	「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	9					・作成した後もご家庭で気にかけていただけるようお願いし、家庭との連携も大切に行きたい。	
14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	9					・月1回のスキルアップ講座(保護者勉強会)、親子リトミック、納涼会、クリスマスコンサートを通して、保護者同士、家族同士が繋がりを持ち、関係作りの場を設けている。 ・今後は、キャンパスだけでなくランドとの交流	

公表	保護者等からの事業所評価の集計結果
----	-------------------

事業所名	ばぶりがキャンパス(児童発達支援)
------	-------------------

公表日 2026年5月25日

利用児童数 9

回収数 9

	チェック項目	はい	どちらか	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
保護者への説明等	15 日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状態について共通理解ができていていると思いませんか。	9				・送迎時に子供の様子を共有する事が出来ている。しかし、他の保護者との距離が近すぎて話しにくい場面がある。	・基本的に保護者の方に送迎をお願いしている理由の一つに、その日その時のお子様の成長の様子の共有、保護者の方との会話を大切にすることにあり。 ・送迎中も療育の一環である事を引き続きお伝えし、ご理解ご協力をお願いします。
	16 定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	8	1				・モニタリング以外でも随時、相談対応を行っている。個別対応は必要に応じて検討している。 ・いつでも相談できる関係性、環境を整える。
	17 事業所の職員から共感的に支援をされていると思いませんか。	9					・「どの子も我が子」であり、子供に対しては「信じ切る」姿勢を大切にしている。常にプラスの言葉かけを心掛けていきたい。
	18 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされているか。	8			1		・月1回のスキルアップ講座(保護者勉強会)、親子リトミック、納涼会、クリスマスコンサートを通して、保護者同士、家族同士が繋がりをもち、関係作りの場を設けている。 ・今後は、キャンパスだけでなくランドとの交流も検討していく。11月には、合同で感謝祭を開催予定。
	19 こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	9					・モニタリング以外でも随時、相談対応を行っている。個別対応は必要に応じて検討している。 ・いつでも相談できる関係性、環境を整える。
	20 こどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いませんか。	9					・支援内容が子供にも保護者にもわかりやすい説明を心掛けている。保護者からの移行に対しては柔軟に対応している。 ・HUGのシステムを使い、いつでも振り返りを見る事が出来る。 ・LINEでの連絡は随時対応している。
	21 定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果をこどもや保護者に対して発信されていますか。	8	1			・LINEの写真が少なくなってきたように感じます。行事予定等のお知らせは丁寧にしてもらっていると思います。	・HP上で公開されている事を再周知する。 ・月1回発行のばぶりが通信、掲示板、Instagramにて発信を行っている。 ・家庭教育についての発信を強化していく。
22 個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いませんか。	9						・プライバシーマーク保持企業である。 ・今後も個人情報管理に努めていく。
非常時等の対応	23 事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	8			1	・避難訓練は実施しているとの事ですが、マニュアルについては把握できていない。	・年に1回、マニュアル内容の確認を行っている。 ・実施内容は保護者に向けての周知をしている。
	24 事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	7	1		1	・どのように訓練がされているかは把握できていない。	・避難訓練は、毎月実施している。様々なシチュエーションを想定して行っている。 ・年に1回は、保護者に協力頂き引き渡し訓練を実施、消防署見学等を通して、子供・保護者・職員で協力して防災意識を高めていきたい。
	25 事業所より、こどもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いませんか。	8	1			・安全確保がされていると思っているが計画については把握できていない。	・安全管理の点が、保護者にご理解頂けるよう情報の公開方法を検討する。
	26 事故等(怪我等を含む。)が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状態等について説明がされていると思いませんか。	7	2				・契約時に説明し、ご理解ご協力頂いている。

公表	保護者等からの事業所評価の集計結果
----	-------------------

事業所名	ばぶりかキャンパス(児童発達支援)
------	-------------------

公表日 2026年5月25日

利用児童数 9

回収数 9

	チェック項目	評価				ご意見	ご意見を踏まえた対応
		はい	どちらかといえば	いいえ	わからない		
満足度	27 子どもは安心感をもって通所していますか。	7	2				音楽療法を基盤とした療育を行い、一人一人の可能性を引き出していくことを大切にしている。又、「出口は就労」と捉え、将来の自立や社会参加に繋がる力を育む事を大切にしている。そして、音楽を通して心を動かし、「やってみたい」「挑戦してみたい」という気持ちを育てていきたい。その積み重ねが『前向き』『素直さ』といった土台を作り、自分らしく生きる力へと繋げていく。子供達の小さな一歩を大切にしながら、未来へと繋がる人材育成を目指して支援していく。
	28 子どもは通所を楽しみにしていますか。	7	2				
	29 事業所の支援に満足していますか。	9					

公表

## 事業所における自己評価結果

事業所名	ばぶりかキャンパス(児童発達支援)		公表日		2026年5月25日	
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	8		・活動ごとに机や椅子、パーテーションを移動し空間を有効利用している。	・広さを有効に活用し、さらに活動の幅を広げていけるようにさらに検討していく。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	8		・個別対応が必要な場合があるが、指導者の担当制を設けて適切に対応している。	・職員配置は基準以上配置して対応しているが、さらに一人ひとりに応じたきめ細かな対応を検討していく。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	8		・入室後の手洗い、身辺整理、出席カードのシール貼りの動線を意識し環境設定を行っている。 ・一人一人の机と椅子、荷物入れを用意し、自分の「居場所」を分かりやすくしている。	・子供の成長に合わせて、机や椅子の高さの調整をしている。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	8		・毎日の清掃、整頓を行っている。必要に応じて室内、教具の消毒も行っている。 ・セッションや体験活動に応じて、室内の使い方を検討している。	・清掃は指導者だけが行う事ではなく、「場を清めると心も清められる」という考え方を大切にして子供達と一緒に清掃や整理整頓の機会を日常的に設けていく。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	8		・パーテーションを使い空間を仕切り、個別活動を行っている。	・パーテーションに寄りかかる等倒れないよう、指導者が見守り安全に気を付ける。
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	8		・毎回朝、帰りのミーティングを行い、情報共有の時間を大切にしている。 ・毎月の支援プログラム会議では、職員全員で意見を出し合い、今の子供達に必要な体験を検討して取り入れている。	・子供達の様子、成長は日々変化している事に臨機応変に対応できるスキルを高めていきたい。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	7	1	・評価表の内容を職員間で共有し、改善策をあげて実行するよう努めている。	・今後スキルアップ講座で、評価結果の共有の場を設ける。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	8		・毎日朝、帰りのミーティングを行い、情報共有の時間を大切にしている。 ・毎月の支援プログラム会議では、職員全員で意見を出し合い、今の子供達に必要な体験を検討して取り入れている。	・職員の意見を業務改善に生かしていく。職員間がお互いが意見を尊重しあえる環境作りを目指している。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	7	1	・今後、必要に応じて外部評価を考えていきたい。	・今後、必要に応じて外部評価を考えていきたい。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	8		・毎月、社長研修(社長による教育理念等の研修)を行い、教育、療育の資質向上を目指している。 ・新人研修やミーティングを通して、職員の学びの機会を大切にしている。	・「学び続ける」大人の姿を子供達に伝える機会を設けていきたい。
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	8		・毎月、職員間で話し合い支援プログラムを決定している。 ・事業所支援プログラムは契約時にお渡ししている。毎月の支援プログラムは、HUGマイページと玄関の掲示でお知らせしている。	・活動内容には、全て理由がある事を引き続きお伝えしていく。
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	8		・アセスメントの時間を対面で設けている。事前に記入してもらったライフサポートブックを元に出生時から現在までのお子様の状況、家庭環境を聞き取りし計画作成に生かしている。	・お子様だけでなく家庭環境、生い立ち等全てを把握し、子供の成長の為の情報共有をさらに大切にしていきたい。
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	8		・個別支援計画を元に、子供の支援に必要な情報共有、個別支援会議を大切にしている。 ・専門的支援実施計画を元に個別の支援(特に言葉に関する支援)に力を入れている。	・全職員が、1人1人の理解を深められるよう引き続き情報共有を大切にしている。
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	8		・個別ファイルに個別支援計画を保管し、日常的に閲覧できるようになっている。 ・支援内容に対して疑問点があった場合は、その都度検討して改善に努めている。	・新しい職員がいる場合は、職員が説明し情報共有をしていく。

公表

## 事業所における自己評価結果

事業所名	ばぶりかキャンパス(児童発達支援)		公表日	2026年5月25日		
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
適切な支援の提供	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	8		<ul style="list-style-type: none"> <li>・日々の様子は送迎時の会話のフィードバックやHUGマイページの振り返りでお知らせしている。</li> <li>・モニタリング時にはモニタリング表を作成し、保護者の方にお渡ししている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者の方に送迎をお願いしている為、直接お話しする機会をさらに大切にしていきたい。</li> </ul>
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	8		<ul style="list-style-type: none"> <li>・「本人支援」全ては子供の成長に繋がるかが判断基準で立案している。</li> <li>・「家族支援」保護者スキルアップ講座を設け、家庭教育の大切さを伝え実行して頂いている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「18歳の壁」を意識し、切れ目のない支援に繋がるよう、「移行支援」「地域移行、連携」にも力を入れていきたい。</li> </ul>
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	8		<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎月、職員間で話し合いプログラムを決定している。その際に、音楽療法を基盤しながら、季節感や体験を重視している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日々進化する音楽療育に対応できるよう、職員のスキルアップを目指す。</li> </ul>
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	8		<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎月、職員間で話し合いプログラムを決定している。その際に、音楽療法を基盤しながら、季節感や体験を重視している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日々進化する音楽療育に対応できるよう、職員のスキルアップを目指す。</li> </ul>
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	8		<ul style="list-style-type: none"> <li>・個別支援計画を元に、子供の支援に必要な情報共有、個別支援会議を大切にしている。</li> <li>・専門的支援実施計画を元に個別の支援(特に個別支援計画)にも取り組んでいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全職員が、1人1人の理解を深められるよう引き続き情報共有を大切にいく。</li> <li>・活動内容が詰め込み過ぎないように気を付ける。</li> </ul>
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	8		<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎朝、帰りのミーティングを行い、情報共有の時間を大切にしている。</li> <li>・その日の活動リーダー、子供の担当を確認して役割を分担する。その時の状況に応じて柔軟な対応も出来るよう様々なケースを想定して準備している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員の意見を業務改善に生かしていく。職員間がお互いが意見を尊重しあえる環境作りを目指している。</li> </ul>
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	8		<ul style="list-style-type: none"> <li>・支援終了時にはミーティングを行い、情報共有や改善点の検討を行い、次の日の支援に繋げている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・その日出勤していなかった職員には、ミーティングノートや業務日誌で共有を徹底していく。</li> </ul>
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	8		<ul style="list-style-type: none"> <li>・全て記録し共有して改善に努めている。</li> <li>・振り返りはHUG上に記録され、支援と様子の経緯を一覧で見ることが出来る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・振り返りの記録だけでなく、送迎時のその日その時のフィードバックも大切にしていきたい。</li> </ul>
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	8		<ul style="list-style-type: none"> <li>・6ヶ月の1度、モニタリングを対面で行っている。貴重な時間を頂きながら、お子様の成長に繋がる有意義な時間になるよう聞き取りを大切にしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・モニタリングだけでなく、日々の送迎時のコミュニケーションも大切にしている。</li> </ul>
関係機	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	8		<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後参加する機会を検討する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後参加する機会を検討する。</li> </ul>
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	8		<ul style="list-style-type: none"> <li>・他支援機関の見学、支援者が集まる会議に不定期に参加している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「18歳の壁」を越えて、支援が続くよう関係機関の繋がりを強化していく。</li> </ul>
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	7	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者の方を通して情報共有をしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・インクルージョンの考え方を多方面に浸透させていきたいと考えている。</li> </ul>
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	6	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者の方を通して情報共有をしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・就学前に移行先に情報共有が必要な場合は柔軟に対応していく。</li> </ul>
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				

公表

## 事業所における自己評価結果

事業所名	ばぶりかキャンパス(児童発達支援)		公表日		2026年5月25日	
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
関 や 保 護 者 と の 連 携	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答)	7	1	・現時点でセンターとの連携はない。 ・事業所内でスーパーバイズ(専門的な支援の質を高めるために、経験のある人が助言・指導・振り返りを行う事)を大切にしている為、今後は外部の助言、研修も検討していきたい。	・現時点でセンターとの連携はない。 ・事業所内でスーパーバイズ(専門的な支援の質を高めるために、経験のある人が助言・指導・振り返りを行う事)を大切にしている為、今後は外部の助言、研修も検討していきたい。
		地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。				
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	5	3	・社会体験活動で、公共の場で出会った子供との関わりを大切にしている。	・頻度としては多くないので、体験活動の観点から回数を増やしていきたい。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	8		・基本的に保護者の方に送迎をお願いしている理由の一つに、その日その時のお子様の成長の様子の共有、保護者の方との会話を大切にする事にある。	・送迎中も療育の一環である事を引き続きお伝えし、ご理解ご協力をお願いする。
34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	8		・保護者スキルアップ講座として、勉強会を毎月1回実施している。又、親子リトミックや納涼会、クリスマスコンサートを開催し、親子だけでなく家族で過ごす時間も大切にしている。	・今年度は「ばぶりか音楽感謝祭」を開催予定である。	
保 護 者 へ の 説 明 等	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	8		・契約時、モニタリング時に説明するよう心掛けている。その都度、疑問点があれば何い対応している。 ・自費徴収がある場合は、前の月にお知らせしている。	・請求書をマイページで確認して頂けるよう、引き続きお知らせする。
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	8		・6ヶ月の1度、モニタリングを対面で行っている。貴重な時間を頂きながら、お子様の成長に繋がる有意義な時間になるよう聞き取りを大切にしている。	・モニタリングだけでなく、日々の送迎時のコミュニケーションも大切にしている。
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	8		・個別支援計画、専門的支援実施計画の内容をよく確認いただくようお願いしている。	・作成した後もご家庭で気にかけていただけるようお願いし、家庭との連携も大切にしていきたい。
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	8		・モニタリング以外でも随時、相談対応を行っている。個別対応は必要に応じて検討している。	・いつでも相談できる関係性、環境を整える。
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	8		・月1回のスキルアップ講座(保護者勉強会)、親子リトミック、納涼会、クリスマスコンサートを通して、保護者同士、家族同士が繋がりをもち、関係作りの場を設けている。	・今後は、キャンパスだけでなくランドとの交流も検討していく。11月には、合同で感謝祭を開催予定。
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	8		・ご意見は真摯に受け止めて改善する事、ご理解を求める事を大切にしている。	・迅速な対応を意識していく。
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	8		・月1回発行のばぶりか通信、掲示板、Instagramにて発信を行っている。	・家庭教育についての発信を強化していく。
42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	8		・プライバシーマーク保持企業である。	・今後も個人情報管理に努めていく。	

公表

## 事業所における自己評価結果

事業所名	ばぶりかキャンパス(児童発達支援)		公表日		2026年5月25日	
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
	43	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	8		<ul style="list-style-type: none"> <li>・支援内容が子供にも保護者にもわかりやすい説明を心掛けている。保護者からの移行に対しては柔軟に対応している。</li> <li>・HUGのシステムを使い、いつでも振り返りを見る事が出来る。</li> <li>・LINEでの連絡は随時対応している。</li> </ul>	・プログラミングを使い、さらに情報伝達手段の工夫を目指す。
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	7	1	・11月に野田ガスホールにて「ばぶりか音楽感謝祭」を開催予定である。	・11月に野田ガスホールにて「ばぶりか音楽感謝祭」を開催予定である。
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	8		・年に1回、マニュアル内容の確認を行っている。	・保護者に向けての周知をしていきたい。
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	8		・BCPを策定し、研修は年2回行っている。	・年に1回、点検し修正する。
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	8		・アセスメント、モニタリング時に確認し、必要に応じてお薬手帳のコピーをいただいている。	・職員間の共有を徹底する。
	48	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	8		<ul style="list-style-type: none"> <li>・アセスメント、モニタリング時に確認している。</li> <li>・食体験前は、使用する食材の内容をお知らせし、確認をしてもらっている。</li> </ul>	・アレルギー対応がある場合は、誤飲誤食に気を付け、個別対応をする。
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	8		<ul style="list-style-type: none"> <li>・年1回見直しをし、必要な訓練、研修に取り組んでいる。</li> <li>・消防署見学を療育として実施。安全管理に関して、職員と子供で学ぶ機会を設けた。</li> </ul>	・安全管理の点が、保護者にご理解頂けるよう情報の公開方法を検討する。
	50	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	8		・年に1回、引き渡し訓練を行い、緊急時の対応を保護者と連携して取り組んでいる。	・毎月1回の避難訓練の様子を保護者にも引き続き伝えていく。
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	8		・月末に集計し、改善策を挙げている。定期的に共有し再発防止に努めている。	・ヒヤリハットは、実際の事故を防ぐ早めのサインとの視点を大事にする。
52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	8		・委員会を設置し、事例を元に検討する機会を設けている。	・ニュースや他事業所の事例を把握し、自分事として捉えて虐待防止に努める。	
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	8		・座位保持椅子を使用する場合は、個別支援計画にて事前に同意を受けている。また、長時間の使用にならないように姿勢を変える対応をしている。	・本児又は他児の怪我防止に努める。	